

ごあいさつ

本号は、記念すべき800号です。大学のハード面の評価は施設・設備等において行われますが、ソフト面では大学紀要が代表的なものといえます。本学では、その重要性を強く意識しながら、紀要の編集を学部や学科のみに任せるのではなく、全学の委員会を設けて検討するとともに、編集の作業は近代文化研究所が執筆者や学科の協力を得て責任をもって行うというシステムが出来上がっています。その積み重ねが800号なのです。

その一つ一つを振り返ってみますと、本学の研究面における全体像とその変遷を、執筆者の顔を思い描きながらたどることができます。窓口をひとつにして、毎月定期的に研究論文をまとめて発行されている大学は極めて少ないと思われます。本学の先輩方が脈々と培って下さった伝統を受け継ぎ、さらに充実させていくことがわれわれの義務であると考えています。

さて、その記念すべき800号は、期せずして初等教育学科・子ども教育学科の紀要となりました。昨年度4年制の初等教育学科が創設され、紀要名も新たに「初等教育学科・子ども教育学科紀要」と改められました。

その創刊号ともいえる788号の巻頭言で、「新たな夜が明けようとしている」と題して、新学科に秘めた私どもの願い・夢を語らせていただきました。今号はその第2号ということになります。

この1年間で、両学科の教員（非常勤でかかわってくださる先生方も含めて）は、それぞれに学内・学外での役割を責任をもって遂行されるとともに、学生の指導にも丁寧にかかわり、自分の専門分野の研究を深められました。その成果の一部が、本号にまとめられています。当然に研究としてのまとまりはあるものの、いずれも研究途上にあるものです。本論文をもとに、さらに研究を発展させようと取り組んでいます。

広く皆様にご高覧いただき、忌憚のないご批評、ご指導をいただけますことを願っております。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本号の刊行にお世話になりました皆様に心より感謝申し上げます。

子ども教育学科長 有村久春

初等教育学科長 押谷由夫